

3. 小児期における予防ケアー

にしもと小児歯科医院 西本 美恵子

健康な口腔の育成を目指す小児歯科医療においては、治療だけでなく、健康者の管理、予防が大切な役目をはたす。

小児期（0才～15才）は、人間の一生、生活環境、医療の内容などを考えた歯科医療の中で重要な意味を持っている。人間のLife Styleの中で一番最初にであう歯科医療の場、また、成長発育途中にある子供たちに、う蝕、歯周疾患、機能異常、不正咬合などが、これから起こるかもしれない、という問題点もある。

今回は、う蝕、歯周疾患の予防について、胎児期、乳児期、学童期、思春期の各時期の特徴と、私の歯科医院で行っている予防 care system、予防指導の要点、予防処置について述べる。

- 予防指導
 - 食事指導
 - ブラッシング指導
 - フロッシング指導
- 予防処置
 - フッ化物の応用
 - 6歳臼歯
 - シーラント

4. 臨床における麻酔法の問題点と工夫点

小児歯科はまの 濱野 良彦

毎日の臨床を通して子供たちを見てみると、子供たちの大部分が、特に低年齢児では、自ら進んで歯科治療を受診しているとは考えられない。友達と遊んでいるのを中断し、あるいは楽しい母親との語らいを中断して来院することが多く、歯科治療を楽しみにして待つようなことはないようである。今日まで、歯科医院は、「薬臭い」、「音が嫌い」そして「治療が痛い」と言った言葉で表現されるように、子供達にとってもまた保護者にとっても嫌われ者の代表として見られてきているようである。そして、その最たるものが注射麻酔である。

痛くない歯科治療を実践するために、一時的であっても注射麻酔という痛みを患児に与えてしまっは、本末転倒というものである。しかしながら毎日の臨床において、治療を急ぐあまりについ犯してしまい易い過ちの1つでもある。

今回、演題名にも示しているように麻酔法の問題点として、麻酔法の手順および術式はもとより、前述した様な小児の複雑な心理状態に対応しなければならない歯科院内の環境問題にも触れながら、私たちの毎日の臨床で行っている「痛くない注射麻酔法」の紹介をかねて解説を加えていく。